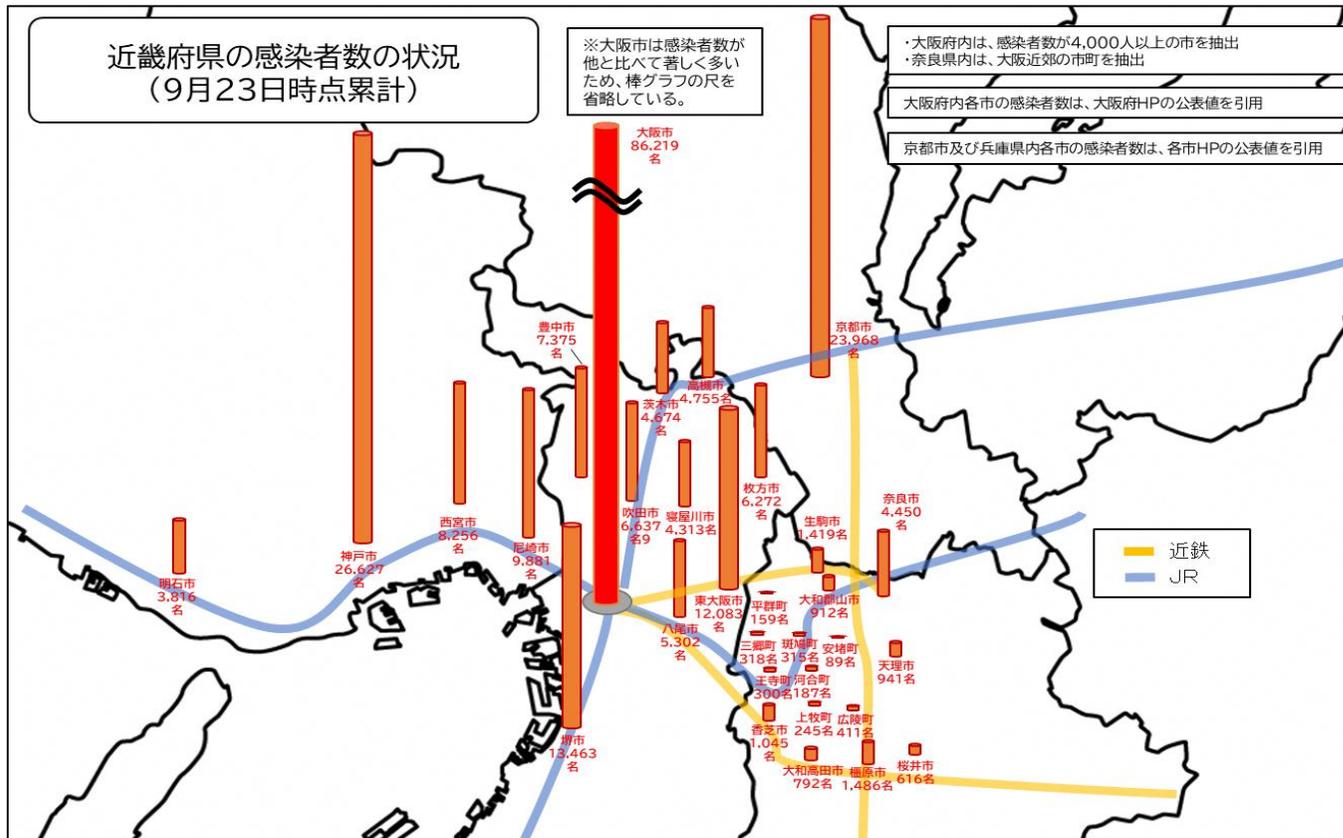


更なる分析の必要性③

都市ごとの感染状況を検証する必要があるのではないか。

- 都市ごとの感染者数を調べると、大都市の中心都市が感染の発生源（感染ピラー）になっているように見受けられる。また、人的交流の経路となる鉄道沿線ごとに感染がまん延しているようにも見える。



○府県別感染者数（累計）

大阪府	19.7万人(100)
奈良県	1.6万人(8)
兵庫県	7.6万人(39)
京都府	3.5万人(19)

※ () 内の数値は、大阪府の感染者数を100とした場合の指数

○市町別感染者数（累計）（単位：千人）

- ・大ピラー

大阪市	86.2 (100.0)
京都市	23.9 (27.7)
神戸市	26.6 (30.9)
- ・中ピラー

堺市	13.4 (15.5)
東大阪市	12.0 (13.9)
- ・その他

大阪府内その他7市計	39.5 (45.8)
（左の図掲載のうち大阪市、堺市、東大阪市を除く）	
尼崎市	9.9 (11.5)
西宮市	8.3 (9.6)
明石市	3.8 (4.4)
奈良市	4.5 (5.2)
橿原市	1.5 (1.7)
生駒市	1.4 (1.6)
香芝市	1.0 (1.2)
天理市	0.9 (1.1)
大和郡山市	0.9 (1.1)
大和高田市	0.8 (0.9)

感染状況を都道府県ごとに判断し、都道府県ごとに対策を考える前に、都市ごとの感染状況と感染の伝わりかたを分析することが必要。